

ポスターセッション	
報告テーマ	介護ロボットの導入と定着で見た希望 ーロボットと共に歩む未来の“KAIGO”ー
法人名・事業所名	社福) 友愛十字会 特別養護老人ホーム 砧ホーム
報告者	大場 翔(介護職員)

電話	03-3416-3164	FAX	03-3416-3494
事業所紹介	砧(きぬた)ホームは、世田谷区にある従来型の特別養護老人ホームです。介護職をメイン職種、他職種をサポート職種としたチーム連携を重視し、「持ち上げないケア」をはじめ、介護専門職の専門性を支持する最先端の取り組みを推進しています。		

砧ホームは、平成28年度～29年度の「東京都ロボット介護機器・福祉用具活用支援モデル事業」モデル施設として、『排泄介助時の中腰姿勢による腰への負担軽減』を解決すべき課題の一つに掲げ、装着型の介護ロボットを導入した。その課題は、現場職員への聞き取りから優先度の高かったものから設定し、導入したロボットは、展示会で見定めながら業者に依頼し施設内で体験会を行うなどして、現場職員の使い易さを重視して選定した。

業者からのレクチャーを受けて使い始めると、使う職員や対象利用者、使う時間や場所など活用の定着にあたりルールを決めて、効果の検証を行った。



業者からのレクチャーの様子



実際に使用している様子

運用開始直後は、装着にかかる手間などの煩わしさからロボットの活用が思う様に進まなかったが、職員全員が確実に使用できる環境を整えることで、活用する職員の数と回数を爆発的に増やすこととなった。その後も、勉強会などを開催し、当該ロボットを活用する目的や意味についての理解を深めることにより、現場職員は継続的にロボットを運用することができ、次のステップである定着へと至った。現在では、排泄介助以外の場面での使用についての検討も盛んになり、意見や情報を共有する場面が増え、チーム内のコミュニケーションの活性化に繋がっている。

介護ロボットの導入により、直接的な課題の解決だけでなく、副次的な組織力の向上が検証されたが、最大の収穫は、介護ロボットを「使いこなせる」という自信と、「魅力ある仕事」としての“KAIGO”への希望を獲得し、未来に大きな一歩を踏み出すことができたことであった。